

F-41

## サイエンスパークの交流促進に関する研究 —神戸医療産業都市における交流イベントの分析—

### Research on measures to promote the exchange of Science Park

#### - Analysis of exchange events in the KBIC -

○西 正史<sup>1</sup>, 天野光一<sup>2</sup>, 西山孝樹<sup>2</sup>\*Masashi Nishi<sup>1</sup>, Kouichi Amano<sup>2</sup>, Takaki Nishiyama<sup>2</sup>

Japan is professing to be a "nation founded on the creation of Science and technology." Therefore, researchers, companies, and the general public are expected to create new research seeds. The purpose of this study is to organize the main points of "measures to promote exchange" by focusing on exchange events in the Science Park. In the research method, the analysis of "Kobe Biomedical Innovation Cluster" Exchange event in 2018 was carried out. As a result, the Kobe Biomedical Innovation Cluster (KBIC) had an exchange event for researchers and companies, accounting for 71% of the total. Also, in the classification by the communication system, the Exchange event of the two-way communication system, which is said to be effective for new ideas, etc., is mainly composed of 53% of the bidirectional type and 69% of the interactive type. I am confident that this research will be used as a means to promote exchange events in the Science Park in Japan.

#### 1. はじめに

##### (1) 研究の背景

「科学は未来を切り拓く」と言われており、我が国は科学創造立国を標榜している。

これからの科学技術の発展には、研究者、企業及び一般人の間の「交流」が、新たな研究シーズや研究支援に繋がると期待されており、殊にサイエンスパークでは「交流」の促進が求められている。

##### (2) 研究の位置づけ

先行研究においては、サイエンスパークにおける「交流」に関する研究は散見されない。

本研究により「交流」の促進策の要点が整理されることにより、国内のサイエンスパークの「交流」の促進に活用が図れる。

##### (3) 研究の目的

「研究者、企業及び一般人の交流」は、交流から“研究”が触発され、新たな発想やアイデアの閃き、ヒントや発見から研究シーズや研究支援策が生み出され、我が国が掲げる「科学技術創造立国」進展の一助となる。本研究は、交流イベントの分析から交流促進策の要点を整理することを目的とする。

#### 2. 研究方法

国内のサイエンスパークの実態調査、文献調査及びヒアリング調査を実施した。その中で特に、神戸医療産業都市の2018年度交流イベントについて、調査、分析を行った。

#### 3. 研究結果

神戸医療産業都市の交流イベント合計 94 件の分析は次のとおりである。

##### (1) 神戸医療産業都市の概要

1998年「日本初のライフサイエンス（健康科学）分野のクラスター」を目指すプロジェクトとしてスタートした。現在、理化学研究所やスーパーコンピュータ「京」等の研究機関、高度専門病院群や医療関連企業・団体が350社（2018年10月末）が集積している。

2001年には国の「都市再生プロジェクト」等にも位置付けられ、「医薬品」「医療機器」「再生医療」「ヘルスケア」「介護・リハビリテーション」等の分野で、基礎研究から臨床応用、産業化まで多様な取り組みが進められている。

##### (2) 研究を視座した交流イベントの分類

###### ①【研究者と研究者】の交流 計9件

・イベント名称：「第40回マンスリーレクチャー」

内容：「優れた研究者による講演会を定期的開催し、交流、協力関係構築のきっかけの提供。一連の研究の歩みや領域全体の研究の流れを伺う」

・イベント名称：「HPCI第5回「京」を中核とするHPCIシステム利用研究課題 成果報告会～ポスト「京」への移行期を迎えるHPCI～」

内容：「研究成果の発表やHPCIに関わるトピックスの発信、研究者間の情報交換、異分野の交流を促進し、研究成果の普及を図る場として成果報告会を開催」等

###### ②【研究者と企業】の交流 計67件

・イベント名称：「第51回理研イブニングセミナー」

1：日大理工・院（前）・まち 2：日大理工・教員・まち

内容：「理化学研究所の研究を産業界に伝え、連携を推進することを目的としている。今回テーマ『臓器を自在に再生する時代がやってきた』臓器の発生、再生研究からオルガノイド培養技術の開発、創業プラットフォームへの展開について解説」

・イベント名称：「HI-DEC Café 8月」

内容：「企業・研究機関など他業種との交流を目的とし、定期開催。名刺・情報交換からマッチングに繋がる機会の提供。飲み物はコーヒー店から出張販売」 等

### ③【研究者と一般人】 18件

・イベント名称：「TRI 設立 15 周年&神戸医療産業都市 20 周年記念シンポジウム 8th World Centenarian Initiative 寝たきりゼロ 100 歳現役社会実現に向けて～アカデミア発医療イノベーションのインパクト～」

内容：「テーマ：『寝たきりゼロ 100 歳現役社会実現に向けて』と『再生医療のニューフロンティア』の講演」

・イベント名称：「世界保健デー・神戸医療産業都市 20 周年記念～『はっと！KOBE 健康フェア』」

内容：「理化学研究所の研究者『子どもの抗疲労生活から脳を育む』『WHO 神戸センターの研究内容紹介』等

#### (3) コミュニケーション方式での分類

### ①【双方向タイプ】計 50 件

・セミナー形式 (36 件)：講義テーマに対し、受講者が参加して意見交換や討論が行われる形式で進行する。

・シンポジウム (8 件)：一つの問題について、何人かが異なる面から意見を述べ合い質疑応答を繰り返す形式の討論会。

・フォーラム (計 4 件)：一つの話題に関して出席者全員が参加して行う討論「テーマ『口腔がん』」等

・フェア (計 2 件)：ヘルスケアの見本市「健康啓発イベント」 等

### ②【一方向タイプ】計 29 件

・講演会 (計 15 件)：講演者が参加者に向かって設定された題目について演説を行う。意見交換はされないため、講演者が一方的に話す形式。

・講習会 (計 7 件)：知識や技能などを習得する場。特に職務上必要な能力を取得する研修や個人が自己啓発で行う学習の場も含む。

・説明会 (計 3 件)

・その他 (計 4 件)：見学会、成果報告会、ポスター展示会、参加体験型イベント

### ③【対話タイプ】(計 15 件)

・カフェ形式 (計 11 件)：本物の「カフェ」のようなリラックスした雰囲気の中で、テーマに対する対話が行われる。

・オープンイノベーション型リビングラボ (計 2 件)：健康・医療・くらし分野における課題に焦点を当て、産学医公民が課題解決の為に同じ目線で対話する場。

・その他 (計 2 件)：サイエンスアゴラ (研究者と高校生の対話)、個別相談会 (研究シーズと事業ニーズのマッチング)

#### (4) イベントの参加費用

イベント 94 件中有料は 3 件のみ。他は全て無料であった。ただし、懇親会等の飲食代や参加体験型の実験用品代については実費弁償的な負担の請求がある。

## 4 考察

神戸医療産業都市は「産業都市」と銘打ち、研究シーズを誕生させ事業化することをプロジェクト使命としている。その為、本研究の交流分析の結果にも傾向が表れている。「研究者を視座した交流イベントの分類」においては、「研究者と企業との交流」が全体の 71%を占めている。また、新しい研究シーズの誕生や研究支援に効果があると言われている「ツーウェイコミュニケーション」は、「コミュニケーション方式での分類」において、「双方向タイプ」は全体の 53%、「対話タイプ」は 16%、両方の合計として全体の 69%を占めている。

さらに、イベント参加へのハードルを低くする一環として、参加費用の原則無料化を実施している。これは、産学官・医工連携の協力体制が充実している表れの一つになる。他のサイエンスパークの交流イベント促進策として参考になる分析結果となった。

## 5 まとめ

本研究では、交流イベントの主催者側のデータに基づいて分析を行っている。次は、サイエンスパークの発展にとて交流イベントの促進向上策を効果的に活用する為に、参加者側の意向データの分析調査が必要である。これらの交流イベント開催の促進策を実施することが、ひいては我が国の「科学創造立国」進展の一助となる。

## 6. 参考文献

- [1] 財団法人先端医療振興財団：神戸医療産業都市の戦略—瓦礫の中から未来を拓く—, P79, 2011 年.
- [2] 神戸市：神戸医療産業都市 KOBE BIOMEDICAL INNOVATION CLUSTER, P9, 2018 年.
- [3] <https://www.fbri-kobe.org/kbic> 神戸医療産業都市ポータルサイト-神戸医療産業都市推進機構